

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
39

振興協議会だより

【発行日】令和元年 10月 24日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



学生対象ジオパークフォトツアー開催！



8月21日に学生対象のフォトツアーを開催しました。このツアーは、前回のフォトコンテストから設けられた「学生部門」への応募者が少なく、撮影地まで自分で運転ができない学生さんからの応募は難しいのではないか？という懸念から広報部が企画し開催する運びとなりました。

地元の写真部に声をかけ十日町高校から5名、十日町総合高校からは3名、顧問の先生等を含め11名の方から参加いただきました。

講師として、飯塚英春さん、戸谷英利さん（ともに日本現代写真家協会所属）、ガイドに仲野専門員がマイクロバスに同乗し、バス

の中では、ジオサイトなどの説明を受け、各所撮影地では具体的な撮影テクニックなどを学びました。

当日は6：40に集合し、早朝の朝靄立ち込める猿飛橋では「今の瞬間はもう二度と来ない！」という一期一会の瞬間を大切にすることを学び、前倉橋、布岩、天池、見玉不動尊、見玉公園など様々な場所で様々な被写体や切り取り方なども勉強し、各自スキルアップにつなげていたようです。

また、昼食会場の山源木工さんでは、基本的な写真講義やフォトコンの注意点などを教えていただいた他、飯塚さん、戸谷さんのたくさんの素晴らしい作品を見せていただきました。

参加者の皆さんから、次回開催を熱望する嬉しい声をいただき、次回は、更に多くの学校に声をかけて今回以上のツアーにしたいと考えております。



撮影を楽しむ十日町市の高校生

苗場山麓ジオパーク
フォトバスツアー開催
新潟県津南町、長野県栄村にまたがる苗場山麓ジオパークをバスでめぐる写真教室が8月21日（水）に行われ、十日町市の高校生ら10名が参加した。
当日は「苗場山麓ジオパークコンテスト」の審査員を務める飯塚英春氏と戸谷英利氏が同行。ジオパーク推進室の説明員から解説を受けながら、火山活動による地質構造がよくわかる峡谷や柱状節理の岩壁などの撮影を楽しんだ。

日本写真企画発行「フォトコン10月号」に掲載されました。



新潟圏域ジオパークガイド意見交換会が開催されました。



9月11日・12日に苗場山麓ジオパークで新潟圏域意見交換会が開催されました。今回は、南アルプス及び浅間山北麓ジオパークを交え、ユニバーサルデザインをテーマに、5ジオパークで意見交換を行いました。

一日目、事務局がユニバーサルデザインの基本理念と概要を説明した後、ジオサイトの「石落し」を見学しました。苗場山麓ジオパークでは、6月のガイド研修で、バスの降車からジオサイト観望場所までを車いすで移動する体験を実施しました。それを踏まえ、他の4ジオパークの皆さんと車椅子体験をしました。体験後、参加者からはユニバーサルデザインの対応として、単純に舗装道路にするだけでなく木

道にする案や、転落防止の措置があった方がよいなどの意見が出ました。二日目に訪れた「小滝・四ツ廻りの滝と運河跡」では、安全な古道の整備や道のりの表示、路肩の安全の確保が必要などの意見をいただきました。

意見交換会では、各ジオパークの実践発表を皮切りに、障害をもったお客様をどのように受け入れるか事前の打合せを入念にすること、ガイド自身の障害者に対する理解と対応の技量をどう高めるかなど、多くの課題を提起していただきました。



第1回 苗場山麓ジオパーク研究コンクール

苗場山麓ジオパークの取り組みの特徴の一つは、エリア内の小中学校の郷土学習等において、ジオサイトに実際に訪れる校外学習などジオ学習を取り入れていることです。令和元年度、新たな取り組みとして、「苗場山麓ジオパーク研究コンクール」を開催しました。これは、夏休みの自由研究において「苗場山麓ジオパーク」をテーマにした研究を募集したものです。

6校の小中学校（分校を含む）から参加児童生徒119人による47作品が集まりました。これらは、審査を行い優秀賞を決定し、農と縄文の体験実習館（9月22日～9月29日）と栄村役場（10月1日～10月10日）で展示を行いました。初年度から多くの参加がありました。来年度は、参加者が理解しやすい自由研究ツアーの実施などを検討し、継続して実施する予定です。

苗場山麓ジオパーク研究コンクール 審査結果



学校名	学年	名 前	研究題名	審査結果
津南小学校	5	風巻 陽幸	石落し	苗場山麓ジオパーク振興協議会会長賞
栄小学校秋山分校	6	福原 弥夢	ジオサイトと秋山郷の関わり	苗場山麓ジオパーク振興協議会副会長賞
上郷小学校	2	島田 智仁	火焔型縄文土器	津南町教育長賞
津南小学校	2	佐藤 美月	しなのがわのかんさつ	栄村教育長賞
津南小学校	4	山本 佳奈	津南町で五七五	苗場山麓ジオパーク推進室長賞
上郷小学校	4	竹内 寿	ぼくが見つけた中津川にすむ魚	ジオパーク賞
栄小学校	6	保坂 優菜	身近にある川の石の種類	ジオパーク賞
津南小学校	4	きらめき学年	苗場山麓ジオパークめぐり	特別賞
津南中等教育学校	1	1 学年 17 班	ジオパーク新聞	特別賞

栗駒山麓ジオパーク視察研修へ行ってきました。

9月26日・27日、商品開発部会で宮城県栗原市の栗駒山麓ジオパークへ視察研修に行ってきました。

主な目的として、栗駒山麓ジオパークが進めている特産品認定事業「栗駒山麓のめぐみ」の取り組みを学んできました。認定商品を取り扱うお店の見学や事業所さんの話を聞きながら、商品のストーリーをととても大事にしていることが分かりました。なぜこの食材が使われているのか、なぜおいしいのか、など認定商品の背景にしっかりとジオパークの要素と地域の歴史や文化が溶け込んでいました。商品のストーリーはジオパーク推進協議会の専門員と事業所の二人三脚でつくられており、民と官の連携もとれていました。

なにより感銘を受けたのは、事業所の方々の熱意でした。それぞれが信念を持ち、自らが出来ることを考え、地域のために実践している姿がありました。

1泊2日の研修でしたが、多くの収穫を得ることができました。苗場山麓でも今回学んだことを確実に活かし、認定商品事業を進めていきたいと思えます。

最後に視察を快く受け入れてくださった栗駒山麓ジオパークの関係者の皆さまには大変お世話になりました。感謝申し上げます。



第4回フォトコンテスト入賞作品展示会のお知らせ

苗場山麓ジオパークでは、ジオサイトを中心とした美しい景観や自然、里山の暮らしなどをテーマにした写真コンテストを毎年開催しています。

昨年開催された、第4回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの入賞作品の展示会を9月21日（土）～10月10日（木）、栄村役場にて行いました。11月16日（土）～12月8日（日）には、農と縄文の体験実習館なじょもんにて展示会を行う予定です。是非、お越しください。

また、第5回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの作品を募集中です。応募締切は12月28日17時までとなっています。詳細は苗場山麓ジオパークのHPまたはチラシをご覧ください。ご応募お待ちしております。



空の展望台看板リニューアル！



苗場山麓ジオパークの代名詞、代表的なジオサイトである河岸段丘を一望できる場所が「空の展望台」です。スキー場のゲレンデ頂上近くにあり、展望スポットとして歴史があります。この場所には、河岸段丘を説明する解説看板とともに、この場所から見ることができる山々の名前を付した看板が設置されていました。しかし、老朽化し見えづらくなっていたことから、新しく貼りなおしました。新しい看板は、河岸段丘に広がる水田に水が張られた田植えの時期の様子を写した写真を大きく引き伸ばし、そこから見える山々の名前を付しました。是非訪れて頂き、雄大な景色をご覧ください。

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

高橋一彦さん



歴史と近代が融合する里・見玉（ガイド No.10 高橋一彦）

津南の街を出発して車で進むこと約10分、今までずっと上りだった快適な二車線の道が、下りに差し掛かります。杉の大木が並ぶ林を抜けた途端、目の前の視界が一気に変化します。道はここから大きく左にカーブし、ここで初めて“隠れ里見玉”の全貌を見ることが出来るようになります。スピードを上げての近代化と共に、何の苦労もなくこの地を訪れることができるようになった現代と、アスファルト道と未舗装路が交互に現れ、冬になるとほぼ一日がかりでやっとたどり着くことができる数十年前と、目に飛び込む感覚と風景は、実は何も変わっていないのではないだろうかと思います。



火生三味火渡り護摩大祭

江戸時代の商人鈴木牧之もこの地を訪れ、記行文「秋山記行」を書き上げています。道順は違いますが、山を上り、坂を下り、始めて全体を感じることができるこの感覚は、牧之も同様に感じていたのではないのでしょうか。

見玉の象徴であり、心のよりどころでもあり、親しみをもって、みんなから「ふどさま」と呼ばれている見玉不動尊。境内は夏の炎天下でさえ、絵空事のように感じさせるどこまでも冷涼な空気に満たされ、仁王門から階段、本堂、その脇を幾つもの滝をもった沢が流れるそれは、秋山記行を身近に感じられる一つになっているのではないのでしょうか。

新しい催しではありますが、毎年11月3日（文化の日）に開催される「火生三味火渡り護摩大祭」では、龍の如く立ち上る煙と炎、多くの信者参拝者で溢れる境内の様は、荘厳という言葉以外見つからないほど、今では人々の心に刻まれるものになっています。

見玉公園は、数年前、見玉の数人のオジサンたちによって切り拓かれました。鬱蒼とした藪を、強い気持ち！だけで切り拓き、整備し、今ではシーズンによっては国道の入り口まで渋滞ができるほどの苗場山麓ジオパークの拠点の一つになっています。園内は、野生動物の生息地にもなっていて、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ホンドギツネ他、フクロウ、ヤマドリ、アカゲラなど多くの野鳥の生息地にもなっています。

現在、公園の整備管理は、秋山郷FC（秋山郷ファンクラブ）の皆さんに引き継がれていて、常に訪れて気持ちの良い場所！を目標に、活動が行われています。

見玉集落では、ホームページ（ふらりみだま）も開設されていて、四季折々の集落・秋山郷・ジオパークの情報発信も行われています。

昔からの伝統を大切に守りながら、新しいものを作り出す場所。みだまにはそんなチカラがあるのかもしれない。



秋山郷 FC の皆さんと公園整備の様子



河川実験装置が設置されました。



8月上旬、なじもんの玄関付近に、川のはたらきがわかる河川実験装置が設置されました。来館したお客様には、随時ご覧いただいています。この装置は逐次、川の流れの様子が変化し、三角州や河岸段丘などのでき方を目の当たりにすることができます。

川のはたらきによる侵食や堆積する現象は、身近にはなかなか見えにくく、学校でもやや敬遠されがちです。装置の特性を調べたところ、小学4年生から中学1年生で学ぶ内容（川の侵食・運搬・たい積の現象など）のほとんどを1単位時間で再現できることが分かりました。苗場山麓の地形の特徴である河岸段丘についても海面を下げることでモデルを作ることができます。

小中学校の授業に限らず、地域の皆さんからもお越しいただき、川のはたらきをご覧いただきたいと思います。



突撃しよう!となりのジオ便利～恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークからこんにちは～

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは、福井県の勝山市をエリアとするジオパークです。「恐竜はどこにいたのか? 大地が動き大陸から勝山へ」をメインテーマとし、その大地には、恐竜が暮らした大陸の時代から日本海が形成され現在に至るまでのダイナミックな地球の歴史が記録されています。このメインテーマのもとに、「恐竜・恐竜化石」、「火山と火山活動」、「九頭竜川などの河川とその地形」という3つのサブテーマを設けています。

のどかな田園風景の中に、一際目立つ銀色に輝く巨大な球体の建造物があります(写真①)。この建物が恐竜をはじめとする古生物研究の拠点である福井県立恐竜博物館です。世界三大恐竜博物館に数えられるこの施設には、40体を超える恐竜の全身骨格が展示されています。恐竜化石の発掘で有名な勝山ですが、勝山市北谷町杉山の発掘現場で1989年から福井県による本格的な調査が始まりました(写真②)。第一次～第四次調査(現在継続中)と続いており、次々と恐竜などの化石が発見されています。これまでに5種類がこの発掘現場から発見されています(日本全体でも8種のみ)。この恐竜化石の見つかる地層(手取層群北谷層)は、約1億2000万年前(白亜紀前期)の地層です。このころは、まだ日本列島は存在せず、大陸の一部でした。大陸を流れていた河川によって周辺で暮らしていた恐竜が土砂に埋まり、地層となったものです。日本列島は存在しないものの、活動的大陸縁(プレートが沈み込む大陸の縁)に位置していました。現在も



写真① 勝山市内の遠景。中心やや上部に写っているのが福井県立恐竜博物館



写真② 恐竜化石発掘現場とフクイラプトル(復元モデル)がデザインされた当ジオパークPRポスター

そうですが、このような場所では、活発な火山活動があります。当ジオパークにおいても、白亜紀後期、新第三紀、第四紀の火山活動の痕跡を地層(一部は地形)として見るすることができます。この大陸の時代から断続的に継続した火山噴出物によって手取層群は覆い隠されました。これらの火山活動の中でも、約2000万年前から1200万年前にかけて起こった日本海の形成に伴う火山活動が劇的な変化を起こしました。この活動が、恐竜化石を含んだ地層を現在の勝山へもたらしたのです。しかし、このままでは、手取層群は厚い火山の地層に覆われたままです。恐竜化石の発見に大きな役割を果たした最後のキーが河川です。ジオパークのエリア内では手取層群は、九頭竜川の支流の谷に沿って露出しています。つまり河川の浸食が、火山性の堆積物を浸食し、手取層群をはじめて地表に露見させ、現在のような恐竜のまち勝山の成り立ちのきっかけとなったのです。

このようなストーリーが詰まった恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークへぜひお越しください。